

合は、生徒に密着したきめの細かい指導が成立していないこと、部活動交代期における対応や、季節の変化に対応する指導計画が適切でなかったこと、実践への具体化が不十分であったことがあげられた)

(6) 評価結果の考察

① 教育経営計画の評価

評価項目	平均	プロフィール		
		3.2	3.7	4.2
形式・内容	活用時の便利性(形式)	4.1		
	具体性と実用性(内容)	4.1		
	三領域における内容の適切性	3.8		
	学級経営における適切性	3.8		
	評価・反省の方法	4.1		
計画作成手順	評価・反省の手順と分析	3.8		
	計画作成及び決定の手順	3.8		
	職員の意向の反映	3.7		
	部会や委員会の意向の反映	3.7		
活用方法	生徒の実態即応	3.8		
	三領域への活用	3.4		
	学年学級経営への活用	3.6		
	週計画への活用	3.6		
	行事計画への活用	3.8		
生徒の変容	評価結果の活用	3.6		
	経営計画の生徒への波及効果	3.6		
	生徒の目標意識の向上	3.3		
	学年学級意識の向上	3.6		
	学習態度及び技能の向上	3.3		
生活態度の向上	3.5			
平均	3.7			

※5段階評価

<考察>

全体として、形式や内容ともに適切で、職員の意向を十分反映している。という評価結果が得られた。教育計画は、学校の教育活動のよりどころとして活用され、生徒の望ましい変容も期待できるとされている。しかし、領域間の評価は、計画、実施、評価の順で下がっており、当初意図した実践活動の強化は十分と言えない。又、教育活動の中心である三領域への活用は平均値以下で、学校教育の最も重要な部分で十分な成果が上げられていない。

② 教育経営計画活用の状況

領域名	活用内容(%)			活用度	順位
	あまりない	ときどき	いつも		
1 経営の視点	24	66	10	6.2	4
2 教育目標群	38	55	7	5.6	6
3 指導の重点	32	61	7	5.8	5
4 努力実践事項	19	64	17	6.6	2
5 行事計画	13	59	28	7.2	1
6 その他の欄	25	56	19	6.5	3
平均	25	60	15	6.3	

<考察>

教育経営計画を、活用の頻度の面から調査したが、領域によって重点の置き方や活用のし方に軽重がみられる。教育活動を進めるための事務的な事項(行事実施計画やその他の欄の連絡事項)の活用度は高く、教育実践に直接結びつかない教育目標群や指導の重点は低い。努力実践事項は、計画作成等、実践化に深くかかわっていることから、活用度が高くなっている。努力実践事項における各領域間の評価は、生徒指導面の活用度が高く、道徳指導面に低い。

5. 今後の課題

教育経営計画は「計画されたことが十分実施されず、教育効果に結びつかない」という反省に基づいて作成された。年間指導計画に対するフォロー計画である。日常の実践活動を推進するために作成されたという意図が、教育活動の実践過程に反映されていなければならないが、このことは、評価結果から見ても一応成功していると考えられる。しかし、評価内容を検討してみると、活用の方法が表面的で、生徒を変容させる力として十分機能していない面がある。今後は、学校経営全体の調和を図りながら、この計画をどう消化し、質的に深めていくかが課題として残されている。

6. 参考文献

学校経営に関する研究— 福島県教育センター編